



Global Network
on Extremism & Technology

ヌサンタラの デジタルランドスケープにおける 急進右翼の活動：概観

Munira Mustaffa

エグゼクティブサマリーと概要

GNETはロンドン大学キングスカレッジの *International Centre for the Study of Radicalisation* (ICSR：過激化研究国際センター) が取り組む特別プロジェクトです。

本レポートの著者は *Chasseur Group* の創設者でエグゼクティブディレクターの *Munira Mustaffa* です。

Global Network on Extremism and Technology (GNET: 過激主義とテクノロジーに関するグローバルネットワーク) はテロリストのテクノロジー利用の理解と対抗措置のために業界が資金提供する独立したイニシアティブ、Global Internet Forum to Counter Terrorism (GIFCT: テロリズムに対抗するためのグローバルインターネットフォーラム) の支援を受けた学術研究のイニシアティブです。GNETはロンドン大学キングスカレッジの戦争研究学部の学術研究センター、International Centre for the Study of Radicalisation (ICSR) により召集され、統制されます。本文書に含まれる見解と結論は著者の見解と結論であり、明示、暗示を問わず、GIFCT、GNETまたはICSRの見解と結論を代表するものではありません。

お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピーに関しては以下にお問い合わせください。

ICSR
King's College London
Strand
London WC2R 2LS
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**

E. **mail@gnet-research.org**

Twitter: **[@GNET_research](https://twitter.com/GNET_research)**

本エグゼクティブサマリーと概要は複数の言語（アラビア語、英語、フランス語、ドイツ語、インドネシア語および日本語）で提供されています。GNETのその他の出版物同様に、これらおよびレポート全文（英語のみ）はGNETのウェブサイト www.gnet-research.org から無料でダウンロードできます。

© GNET

エグゼクティブサマリー

本レポートでは海域東南アジアの極右活動家、オルト・ライトコミュニティおよび国家主義や文化・宗教保守主義の極端なイデオロギーを積極的または消極的に支持する者がネット上に投稿した急進的な右派政治と関連付けられる Twitter, Facebook, Discord, Telegram および Instagram の英語、マレー語およびタガログ語の 14,615 のアカウントを概説し、分析する。本レポートは世界的な時事問題や、地元レベルの不満と絡み合った陰謀論などの世界全域からのテーマとナラティブがその反動的な誇張を拡散し、正当化するために、いかに彼らのフォロワーを引き付け、募り、興味を起こさせるかについて探究する。

主な調査結果

- 海域東南アジア全域の極右コミュニティはネット上で活動的で政治的事象に反動的である。
- 極右コミュニティには 3 つのタイプがあり、その全てが独自の政治的目標と運営上の安全のために特定のソーシャルメディアプラットフォームを好んで利用する。
- これらのコミュニティでは文明、経済、政治、宗教および社会機構という主に 5 つのテーマを中心に議論が繰り広げられている。
- 本レポートは反ユダヤ主義、文化帝国主義および歴史修正主義と関連するキーワードを含む総計 14,615 のメッセージを分析の対象とした。
- 本レポートのために調査した 3 つのタイプの運動のうち 2 つはトローリングとスウォーミングを通じて標的を定めたハラスメント戦術を利用していることが明らかになった。

概要

2020年11月、警察官はシンガポールの国内安全法の下で2019年のクライストチャーチのモスクで起きた銃撃事件の2周年記念日に2か所のモスクでイスラム教徒を殺害することを策略したかどで身元不明の16歳の若者を拘留した。¹シンガポール人の若者はインド系のプロテスタント教徒で、Woodlands住宅街にあるAssyafaahとYusof Ishakモスクを襲撃する計画を立てていた。このジェスチャーは2019年にニュージーランド・クライストチャーチの2か所のモスク銃乱射テロをFacebookに生配信した犯人、プレントン・タラントに敬意を表するためのものだった。²シンガポール人の若者は軍用チョッキとマシエティをネットで購入していた。逮捕後、地域のセキュリティ専門家はこの事件を「相互急進化」の実例だと描写した。³

現代の極右イデオロギーには広範な戦前の歴史があることに注目する必要がある。極右イデオロギーの復活は現在の政治的および社会的危機の論理的な説明および解決策と見られているため、勢いを得ている。⁴このため右翼過激主義とそれに付随する極右イデオロギーは、最も理解されていないタイプの東南アジア地域におけるイデオロギーで駆り立てられた暴力的過激主義である。⁵現代の右翼過激主義はこの地域を悩ませてきた闘争的なイスラム過激主義と暴力への反動または反応と提案したい思いにかられるが、それはより複雑な問題を過度に単純化することになるだろう。本レポートは各グループのフォロワーが頻繁に利用する人気のあるソーシャルメディアプラットフォームから集めたサンプルデータに基づき、東南アジアにおける異なるオンライン社会政治的運動のメンバー間で共有される極右ナラティブのタイプを分析する。

言論戦ということになると、潜在的な新メンバーにアピールするための過激主義者のメッセージングであろうと、政敵または経済的ライバルを傷つけるために考案された国家によるキャンペーンであろうと、ナラティブは常に中核的である。それゆえ、現在の相互接続したデジタル世界においてメディア空間はナラティブとカウンターナラティブの戦場と化した。⁶極右から過激な左派までイデオロギーの範囲全域で様々な憎悪的なイデオロギーの運動がネット上に広く存在するが、それらは一つの空間または一つのプラットフォーム上だけに存在しているのではない。頻繁に利用されるプラットフォームはグループや運動間で大きく異なる。

最も一般的で目に見えて優勢なネット上のヘイトグループは主に政治的に保守的な国家主義者で構成され、彼らは申し合わせたネット上のヘイトキャンペーン、ガスライティングおよび標的を定めたハラズメントなどの方策を使って反対者を数で圧倒する。彼らは彼らが支持する政治家、

1 "Detention of Singaporean Youth Who Intended to Attack Muslims on the Anniversary of Christchurch Attacks in New Zealand," Ministry of Home Affairs, アクセス日 2022年3月11日, <https://www.mha.gov.sg/mediaroom/press-releases/detention-of-singaporean-youth-who-intended-to-attack-muslims-on-the-anniversary-of-christchurch-attacks-in-new-zealand/>.

2 Amalina Abdul Nasir and Vidia Arianti, "Christian Far-Right: Copying Jihadist Extremism?," S. Rajaratnam School of International Studies (Nanyang Technological University, 2021年3月15日), <https://www.rsis.edu.sg/rsis-publication/icpvt/christian-far-right-copying-jihadist-extremism/>.

3 Amy Chew, "Far-right vs Islamists: A Vicious Circle of Extremism in Southeast Asia?," South China Morning Post, 2021年2月6日, <https://www.scmp.com/week-asia/politics/article/3120789/far-right-vs-islamists-vicious-circle-extremism-southeast-asia>.

4 H. Maruta, "Fasisme," *Iqtishaduna: Jurnal Ilmiah Ekonomi Kita* (2015), <https://ejournal.stiesyariahengkalis.ac.id/index.php/iqtishaduna/article/view/60>.

5 Munira Mustafa, "Right-Wing Extremism Has Deep Roots in Southeast Asia," GNET, 2021年7月14日, <https://gnet-research.org/2021/07/14/right-wing-extremism-has-deep-roots-in-southeast-asia/>.

6 P. F. Wallner, "Open sources and the intelligence community: myths and realities," *American Intelligence Journal*, 1993年春/夏号, 19-24.

候補者または政党を公に批判するほど大胆な者にネット上で標的を定め、スウォーミングする。これは敵対者を脅かし、沈黙させる非常に一般的な方法で、それと同時に彼らは自らの中核的価値観と信念を声高に訴え、推進する。ソーシャルメディアプラットフォームの多くは悪意のある行動者（人間、ボットの両方）がこれらの空間で繋がり、悪質な政治を推進するのを許容することでこの有害な行動を抑制し損ねている。⁷ ここでの主な課題は主に微妙な言語と文化的コンテキスト、すなわち、ドッグ・ホイッスル（ソーシャルメディアの人工知能）によるもので、問題を管理するためにサポートスタッフができることは限られている。

また米国とヨーロッパの白人至上主義者グループに類似した様々な汎アジア主義運動がネット上に存在する。これらの運動のメンバーは複数のアイデンティティと国籍で構成されているが、「内集団」の一部となるためにはアジア人でなければならない。彼らの中核的なイデオロギーは宗教が何であれ、国家主義のアジアの排外主義者の価値観を持つファシストのアジア人国家を確立する願望である。彼らはそれは太平洋戦争を招いただけでなく、今や現代のファシスト国家主義的汎アジア主義運動の主なインスピレーションである 1930 年代後半および 1940 年代の日本の「アジア人のためのアジア」政策と大して変わらない世界的な地政学的願望を共有している。⁸ また、これらの集団は「伝統的な」過激派集団と同様に様々な事柄に対する好み異なり、痛烈なミーム争いを通じて内紛劇に巻き込まれている。その一部は分裂し、新しい運動を形成したり、他のより確立したグループと提携することさえある。これらのグループはそのような空間で新規参加者や既存メンバーの名前や経歴を監視して彼らのサポートが本物であることを確認できる、より隠密なチャット空間に所属する傾向がある。

本研究はネット上の過激な右翼活動と連携する 3 つのタイプのソーシャルメディア運動を分析した。そのような活動は右翼過激主義者と、積極的、消極的を問わず、彼らの国家主義と宗教の保守主義の原理を支持する者によって行われた。また本研究は反動的なスピーチを拡散し、正当化できるように同様に連携されたフォロワーにアピールするために米国の政治的論議、ロシアの偽情報および陰謀論などの世界全域から発信されるテーマとナラティブがいかに現実の地元の不満と結び付けられているかについても調査した。

7 Covid-19 パンデミックの初期にフィリピンでいかに「ボットヘイト」が武器にされたかも参照してください。Joshua Uyheng and Kathleen M. Carley, "Bots and Online Hate during the COVID-19 Pandemic: Case Studies in the United States and the Philippines – Journal of Computational Social Science," SpringerLink (Springer Singapore, 2020 年 10 月 20 日), <https://link.springer.com/article/10.1007/s42001-020-00087-4>.

8 Eri Hotta, "Pan-Asianism and Japan's War 1931-1945," 2007, <https://doi.org/10.1057/9780230609921>.



お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピー
に関しては以下にお問い合わせください。

ICSR
King's College London
Strand
London WC2R 2LS
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**
E. **mail@gnet-research.org**

Twitter: **[@GNET_research](https://twitter.com/GNET_research)**

GNET のその他の出版物同様に、本レポートは GNET
のウェブサイト www.gnet-research.org から無料で
ダウンロードできます。

© GNET